

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 5 月 26 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520054

研究課題名(和文)アヴァダーナ説話集の校定研究

研究課題名(英文)A Study of Buddhist Sanskrit Avadana Literature

研究代表者

岡野 潔 (Okano, Kiyoshi)

九州大学・人文科学研究科(研究院)・教授

研究者番号：80221844

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：4年間においてネパール梵文写本に基づき仏伝・説話文献の校訂・翻訳・研究を行ったが、その成果は次のごとくである。(1)『如来出生アヴァダーナマター』は第1、3、4、8章の、(2)『善説語・大ラトナ・アヴァダーナマター』については第16、17、34、35、38章の、校定・翻訳を発表した。(3)『菩薩アヴァダーナの如意鬘』については第80、81、82、83章の梵文と蔵訳の校定と翻訳を発表し、また(4)『マハーサンヴァルタニー・カタール』の全6章の校訂の出版を行い、(5)梵文『アヴァダーナ・シャタカ』の第49、66、69、97章の和訳を、上記の(2)の研究内容と関連して、発表した。

研究成果の概要(英文)：During the term of 4 years of research (from April, 2012 to March, 2016) I edited the following sanskrit texts (and the tibetan texts, if necessary) in my papers : (1) chapters 1, 3, 4, 8 of the TathAgatajanmAvadAnamAIA, (2) chapters 16, 17, 34, 35, 38 of the SubhASita-mahAratnAvadAnamAIA and (3) chapters 80, 81, 82, 83 of KSemendra's BodhisattvAvadAnakalpalatA. Most of above editions are accompanied by my Japanese translations. Besides, for 4 years I edited (4) all 6 chapters of the MahAsamvartanIkathA, and translated (5) chapters 49, 66, 69, 97 of the AvadAnazataka into Japanese.

研究分野：人文学 インド仏教学

キーワード：インド仏教 ネパール仏教 サンスクリット語文献 仏教説話文献

## 1. 研究開始当初の背景

ネパールの仏教徒の梵語説話文献写本の研究は、今後大いに進展が期待できる領域にもかかわらず、未だ校定研究が極めて少ないのが現状である。

ネパールの現存する梵語文献写本においては説話文献とタントラ文献の領域の写本が、写本の量の全体においてかなり大きな部分を占めるにもかかわらず、最も研究が遅れてきたのが、この二つの文献の領域である。近代のインド仏教学は論書と大乘經典の写本に関心を集中させ、その結果、現在までに梵語の論書・大乘經典は主要なテキストの校定研究がほぼ出揃いつつある状況であるのに対して、説話文献とタントラ文献の梵文写本の校定研究はほとんど等閑視されてきた。最近になってタントラ文献の研究は、若手の密教学者が多く参加するようになって盛んになりつつある。しかし説話文献の領域については、未だ甚だ校定研究が乏しい。そのためこの研究課題により、ネパール写本に基づく梵文の仏教説話文献の写本研究を大きく前進させることが計画された。

## 2. 研究の目的

本研究課題は、目的・手法・範囲が明確である。それはネパールの梵語写本を用いて4年間で特に次の三種類の仏教徒の梵文説話テキストを中心に、校定研究を行うことを目的とする：

- (1) 『如来出生アヴァダーナマラー』 (Tathāgatajanmāvadānamālā)；
- (2) 『善説語・大ラトナ・アヴァダーナマラー』 (Subhāṣitamahāratnāvadānamālā)；
- (3) 『菩薩のアヴァダーナの如意鬘』 (Bodhisattvāvadānakalpalatā)。

## 3. 研究の方法

本研究の学術的な特色は、原典批判の方法の手堅さにある。

原典批判による校訂研究を成功に導く鍵は、第一に、決定的な役割を果たす重要な写本を入手していること、第二に、西洋における原典批判の方法論をよく知っていることである。本研究はこの二つの条件を満たすものであり、第一の点については、すでに十年以上もかけて、梵文仏教説話文献の梵文写本の蒐集に努めてきており、原典批判を行う上で最も決定的な役割を果たす写本をすでに入手している。第二の点についても、ドイツで手堅い原典批判の方法論を学び、これまでに多数の校定作業に従事して、それを実習してきている。

本研究は、従来の高島寛我や黒田親などの日本におけるアヴァダーナマラー類の写本研究が、質の悪い写本だけに依って強行さ

れた結果、極めて不完全なローマ字転写しか発表出来なかったことを学術的に反省することを、その出発点にしている。そのため、本研究は写本情報の蒐集に多大な労力を費やし、写本を多数入手して、原典批判を行うための完璧な条件・環境を整えた上で行う。

## 4. 研究成果

本研究課題では、4年間(2012年4月1日～2016年3月31日)に当初の予定通りに研究を進捗させ、成果を得た。

具体的には、次の(1)～(3)の三つの浩瀚な仏伝・説話文献のサンスクリット語の原典テキストをネパール写本に基づいて校訂し、またその翻訳・研究を行った。

- (1) 『如来出生アヴァダーナマラー』 (Tathāgatajanmāvadānamālā)
- (2) 『善説語・大ラトナ・アヴァダーナマラー』 (Subhāṣitamahāratnāvadānamālā)
- (3) 『菩薩アヴァダーナの如意鬘』 (Bodhisattvāvadānakalpalatā)

本研究課題の研究期間内に、これら三つのテキストに対して行った校訂・翻訳・研究の成果の詳細を示すと、以下のごとくである。

(1)の文献(全37章から成るネパール撰述の梵文の釈尊の伝記)については第1章、第3章、第4章、第8章の、合計4つの章の校定・全訳・研究を発表した。またこの(1)のテキストで引用がなされている別の梵文テキストであるサルヴァラクシタ作『マハーサンヴァルタニー・カタール』(Mahāsaṃvartanīkathā 大いなる帰滅の物語)の校訂・翻訳も同時に進め、発表を行った。

(2)の文献(全42章から成るネパール撰述の梵文の仏教説話集)については第16章、第17章、第34章、第35章、第38章の校定・翻訳を発表した。またこれらの章の研究に併せてそれらと内容的に関連する梵文『アヴァダーナ・シャタカ』(Avadānaśataka)の第49章、第66章、第69章、第97章の和訳を発表した。

(3)の文献(全108章から成るクシェーメンドラ作の仏教説話集)については第80章、第81章、第82章、第83章の合計4つの章の梵文と蔵訳の校定と翻訳を発表した。

特に(1)と(2)の文献のほとんどの章の校訂・翻訳は世界で初めてなされたものであり、特に校訂については海外からも大きな反響があった。

これらの、未校訂の文献の多くの章の校訂と翻訳が研究期間に集中的になされたことは、世界の仏教説話文学の領域の研究における、大きな達成の一つと見なしうる。4年の研究期間中に私が毎年発表した、本研究課題遂行

のために書かれた論文のページ数を合計すると、586頁になった。

本研究課題は、それ以前の、平成 19 年度～22 年度の基盤研究 (C) : 「中世インド・ネパールの梵語仏教文献の研究」(研究代表者: 岡野 潔) と内容的に密接に繋がるものであり、その研究も含めると、平成 19 年度から 27 年度までの期間に、私はネパール写本に基づく伝・説話文献の研究として、以下の成果を得たことになる:

(1) 『如来出生アヴァダーナマーラー』(全 37 章から成る仏陀の伝記) についてはこれまでに第 1 章、第 3 章、第 4 章、第 8 章の合計 4 つの章の校訂と翻訳を發表。

(2) 『善説語・大ラトナ・アヴァダーナマーラー』(全 42 章から成る仏教説話集) についてはこれまでに 16 章、17 章、23 章、30 章、31 章、33 章、34 章、35 章、38 章の合計 9 つの章の校訂と翻訳を發表。

(3) 『菩薩アヴァダーナの如意鬘』(全 108 章から成るクシェーメンドラ作の仏教説話集) についてはこれまでに 50 章、55 章、76 章、77 章、80 章、81 章、82 章、83 章、91 章、92 章、94 章、95 章、96 章、97 章の合計 14 の章の校訂と翻訳を發表。

(4) 『アヴァダーナ・シャタカ』(全 100 章から成る仏教説話集) についてはこれまでに 46 章、47 章、48 章、49 章、66 章、69 章、85 章、97 章の和訳を發表。

(5) 『大いなる帰滅の物語』(全 6 章から成る 12 世紀の仏教カーヴィヤ) についてはこれまでに 6 章全部の校訂と翻訳を發表。

以上が現時点までで發表された成果であるが、未發表であるが得られている成果も大きい。そのため、研究された上記の 5 つの文献については、發表を更に継続し、研究をいっそう広く深いものにしてゆく必要を強く感じている。今後もさらに多くの章の校訂と翻訳を進めてゆきたい。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 10 件)

1. 岡野 潔 (単著) 「世界史を説く未知の正量部聖典からの引用文テキスト(1) —『有為無為決訳』第 8 章における引用文の蔵文テキストの校訂・和訳—」、『哲学年報』75 輯、2016 年 3 月、15-53 頁。(査読: 無)

2. 岡野 潔 (単著) 「Kalpalatā と Avadānamālā の研究(6) — Kalpalatā 第 83 章、TJAM 第 3 章と第 4 章、SMRAM 第 38 章 —」、『南アジア古典学』10 号、2015 年 7 月、1-104 頁。(査読: 有)

3. 岡野 潔 (単著) 「Sarvarakṣita 作 Mahāsaṃvartanīkathā 校定テキスト(3)」、『哲学年報』74 輯、2015 年 3 月、13-47 頁。(査読: 無)

4. 岡野 潔 (単著) 「Kalpalatā と Avadānamālā の研究(5) — TJAM 第 1 章と Virūpāvādāna と Padmākṣāvādāna —」、『南アジア古典学』9 号、2014 年 7 月、101-198 頁。(査読: 有)

5. 岡野 潔 (単著) 「Sarvarakṣita 作 Mahāsaṃvartanīkathā 校定テキスト(2)」、『哲学年報』73 輯、2014 年 3 月、1-36 頁。(査読: 無)

6. 岡野 潔 (単著) 「Kalpalatā と Avadānamālā の研究(4) — Nārakapūrvika, Pretibhūtamaharddhikā など —」、『南アジア古典学』8 号、2013 年 7 月、161-264 頁。

7. 岡野 潔 (単著) 「Sarvarakṣita 作 Mahāsaṃvartanīkathā 校定テキスト(1)」、『哲学年報』72 輯、2013 年 3 月、47-80 頁。

8. 岡野 潔 (単著) 「ネパールの伝アヴァダーナ・マーラー Tathāgatajanmāvadānamālā」、『印度学仏教学研究』62 卷 1 号、2013 年 12 月、330-323 頁。(査読: 有)

9. 岡野 潔 (単著) 「Kalpalatā と Avadānamālā の研究(3) — Subhadra, Hetūttama, Pretikā の説話 —」、『南アジア古典学』7 号、2012 年 7 月、257-365 頁。(査読: 有)

10. 岡野 潔 (単著) 「世界の成り立ちをめぐる外教との論争 — 『大いなる帰滅の物語』第 1 章第 4 節読解 —」、『哲学年報』71 輯、2012 年 3 月、1-46 頁。(査読: 無)

[学会発表] (計 2 件)

1. 岡野 潔 「ネパールの伝アヴァダーナ・マーラー TJAM について」、日本印度学仏教学会 64 回学術大会(松江県民会館) 2013 年 9 月 1 日

2. 岡野 潔・谷 隆一郎・関 一敏 「シンポジウム: 宗教談話」、西日本宗教学会第 3 回学術大会公開シンポジウム(九州大学)、2013 年 3 月 30 日 14:00~17:00、九州大学箱崎文系キャンパス 21 世紀交流プラザ 2 階第 1 教室

[図書] (計 1 件)

1. (共著) 岡野 潔・岡崎 敦 [編] 『テクストの誘惑 フィロロジの射程 (九州大学文学部人文学入門4)』、九州大学出版会、2012年9月。(岡野潔の執筆部分:「餓鬼文献を読む」3-17頁)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0件)

○取得状況 (計 0件)

[その他]

ホームページ等

<http://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp>

(私の論文の大部分はPDFファイルとして学術情報レポジトリからダウンロードすることができる。「九大コレクション」<http://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp> で私の名前 (岡野潔) を検索するとダウンロード可能な論文がすべて示される。)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岡野 潔 (OKANO, Kiyoshi)

九州大学・人文科学研究院・教授

研究者番号: 80221844

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし